

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株式会社 三重互助サービス
(ユニット名)	グループホームさるびあ新正
所在地 (県・市町村名)	三重県四日市市新正5丁目2-6
記入者名 (管理者)	城田 裕子
記入日	平成 19年 8月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしての理念を職員で考え地域との交流および貢献を考えまた入居者様の尊厳も考え作り上げた。</p>	○	まだまだ地域の方々との交流が少なくこれからも頑張りたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、申し送りの後にその日の日勤者及び夜勤明けの職員も含め、額に入れて掲げている理念を読み一日のスタートに再確認しながら認識するようにしている。</p>	○	職員の採用時にも理念を理解していただくようにしたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホーム玄関、台所、ホールなど目に付くところに額などに入れて掲げている。ご家族、その関係者の訪問時に話したり、運営推進会議時に説明した。</p>	○	平成19年6月からの理念のためご家族様への説明不足と感じるためまた、訪問できないご家族も見えるため文章で詳しく説明したいと思います。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>立地的に会社が多く散歩などに出かけると道行く人に挨拶をしている。また昼食に利用することもある。また唯一個人宅が隣にありよく施設周りの草刈をして下さりすぐにお礼をお持ちするが日常的な会話で終わることが多い。</p>	○	施設の行事ごとに声かけし参加して頂けるようにしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏祭り、クリスマス会、研修会など回覧板やビラを配り参加して楽しんでいただくよう交流を持つように努力している。</p>	○	地域の方々でボランティアなど訪問していただけるような方を探して協力していただけないように努力していただきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症の講習会を地域の方々へ回覧板やビラで案内し行った。</p>	<p>○</p>	<p>キャラバンメイトなど講習会をこれからも行いたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で個別に記入してもらいいろいろな考えを確認しサービスの向上に努めている。</p>	<p>○</p>	<p>一人で考えず必ずミーティングなどで皆で考えている。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームの現状報告を行い又問題点などへの対処方法など報告し意見交換を行いサービス向上へ努力をしている。職員も一人ずつ参加し、同一の目標を確認している。</p>	<p>○</p>	<p>会社や店が多い地域なのでこれからはその方々にも参加していただけるように声かけをしたい。</p>
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>夏祭り、認知症の講習会への参加の案内をしている。</p>	<p>○</p>	<p>運営推進会議以外にももっと担当者との交流を持つようにしたい。</p>
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会時に説明を行いまた対応が必要な方に遭遇したときに職員への説明をしている。</p>	<p>○</p>	<p>社外及び社内での研修会に全職員は参加できるようにしたい。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待も含めどのような小さなミスや事故もすぐにひやりはつとを書き報告しその月のミーティングに解決方法や向上に役立てて防止に努めている。</p>	<p>○</p>	<p>社外及び社内での研修会に全職員は参加できるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧の説明している。また入居者の状況変化による契約解除などその他契約に関する不安、疑問など家族様が話しやすい環境作りのため普段からコミュニケーションを取るよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が月1度訪問していただき入居者の相談にのって頂き意見や希望を聞き運営に反映している。また入居者の様子を第三者からの視点での意見などサービス向上に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月新正だよりを発行し毎月の施設での報告、。連絡事項など知らせている。また毎月主治医の往診時の報告を兼ね近況報告などを担当者が必ず電話、訪問時に報告しその時に家族の不安、質問などに対応しその時々やミーティングに全職員で考え対応している。	○ 最初は拒否感が感じられたが今では過去の話などもしてくれるようになりこれからもコミュニケーションを大切にしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月最低2回の家族への報告と一人に一人ずつの担当者を付け家族とのコミュニケーションを取るよう話しやすい雰囲気作りに努力している。	○ 一度家族へのアンケートを実施したがもう少し細かく書きやすいアンケートにし家族の本心を聞くようにしたいと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティング、勉強会をパート職員含め必ず全員で行っている。日々起こった問題については個人の判断での対処は禁止しその場にいる職員全員での対処している。判断できない場合は管理者、代表者への相談を行う。また毎日の申し送りに報告し連絡漏れのないようにしている。	○ 正職員は夜勤があり日勤での状況がわかりづらいので毎日パート含め全職員へその日に日勤者がメールにて日々の申し送りを送るようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	8人の入居者に対して11名の職員で対応しているためローテーションは問題なく進めていける。また緊急対応者及びその補助としてサブを毎月の勤務表に入れ緊急時に対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者、家族のコミュニケーションのため職員の異動は極力抑えているがやむを得ない時には引継ぎを徹底するように努力している。	○ 他にもある関連施設との交流を家族単位で持てるように企画したい。また職員も他の施設へ日勤業務に就き入居者との交流を持つようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会、社内社外研究会、運営推進会議への参加など全職員が参加できるように勤務表を組んだり、問題意識を持つように日々仲間で話し合うようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流は密にしている。また地域の学習会に参加し他との施設の情報交換に役立てている。	○ 他グループホームとの交流を持つようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに気を配り外出時に職員も気分転換できるように努力している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月二人づつの担当を決め壁面や作品、レクリエーションなど自分の得意なものが発揮できるように努めている。年度始めに目標などを書いてそれに向かって努力や反省をし各自の向上心を認めるように努力している。	○ いろいろな意見や発表ができる環境作りに努力したい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で今までの生活状況を聞き入居時には全職員が把握できるように努めている。また本人の不安を除くように全職員で状況の把握に努めうまくいった場合、だめな場合など常に話し合い少しでも早く不安などが解決できるように努めている。	○ 毎月訪問している介護相談員や市役所、他施設への相談などをし自社だけでなく幅広い意見を聞けるようにし入居者が安心して生活できるように努力したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で話安いようにゆっくり聞くことに努めている。ほとんどの方が自分を責めているので反対の立場で「親なら子供の幸せを一番考えているから」ところから自分たちの生活で幸せになるようにがんばるように話して安心感を持ってくれるように努力している。	○ これからもコミュニケーションを取り話しやすい環境作りに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、状況を確認し関連施設も含めた支援の提案をするように努めている。	○	他事業所の情報交換をもっと行いたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在突然の入居が多く不安定になり易いため家族の訪問や電話での会話など頻回に行い安定感を持ってもらうように努めている。	○	忙しい家族が多いため訪問し入居者の安定を図ることができにくい。電話での会話で安定を図ることが多いためできれば家族以外の友人など訪問が叶うように話し合っていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族、担当職員、職員一同、関係者一同で情報を共有し皆で支えあい、尊厳を守りながら支援しようと心がけ本人にも伝えるようにしている。	○	入居者は遠慮していることが多く、なかなか本心を聞けないことが多いが職員一同で努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の辛い思いを共有し入居者へのよりよい支援ができるように報告や訪問時でのコミュニケーションをとり協力関係が円滑にいくように努力している。	○	家族の思いが素直に出せるようにアンケートを作成し実行していきたいと思っている。できるだけコミュニケーションを取りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月2回の報告や訪問時に本人の状況をこまめに報告し本人の意思、家族の思いなど考慮しながら行事への参加などへの誘いなど円満に行くように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人の訪問を家族への報告時に声かけしている。	○	なじみの場所への訪問も計画したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別の情報や特徴など常に職員間で共有し一人ひとりに合った支援で入居者同士の関係がスムーズにいくようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移っても行事への参加や訪問なので交流している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族の情報などで一人ひとりを把握している。職員間での情報交換も統一している。問題が生じたら毎日の申し送りやミーティング、勉強会などで相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルにすべての情報が載っているので職員が共有でき、よりよい支援ができるようにしている。また新しい情報は連絡帳に記載し申し送りやミーティングなどで共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの生活や性格、癖、特徴など把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思、家族の思いを聞き日ごろの生活を把握しケアプラン、モニタリング、ミーティングなどを行い介護計画を立てている。	○	プランが画一的にならないように他事業所や他のケアマネージャーと意見を交換できるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化が生じた時など家族も含め相談、話し合いを行っている。。	○	ケア関係者や他事業所との交流を持ち新しい情報などの把握に努めより良い介護ができるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は状況が把握できような記入の仕方になっている。職員がその情報を元に実践するようにしている。	○	忙しく十分な記入時間が少なく、状況が浮かんでくるような記入が徹底されていない事もあるが申し送りなどにより職員間の情報漏れ、確認の怠りなどがないように徹底したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や受診など本人、家族の状況に応じ臨機応変に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員などの協力を得て本人の意向や希望を聞き、より良い暮らしをしていただくようにしている。	○	他施設へのボランティアの訪問時参加しているが自分の施設への訪問もこれからはお願いしたい。またいろんな機関を通じていろいろなボランティアと接触し訪問をお願いしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状況や希望に応じ近くの施設(公共)へ足浴へ出かけたり近所のデパートへ出かけ買い物や理容院を利用している。	○	他事業所との交流をもっと持つようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在介護相談員や他事業所のケアマネジャーからの情報や意見や新しい法律などの聞く機会はあるが地域包括支援センターとの協働はしていない。	○	これからは地域包括支援センターとの交流を持ちたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に当社のかかりつけ医の説明を行い承認されている。以前の主治医との希望がある場合は医療機関同士での協力も得られスムーズに進んでいる。また医療機関への受診は家族が基本だが不可能な場合は職員が対応している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期の支援をどのようにしていくか、経営者、会社関係者と話し合いたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を傷つけないように職員の意識確認や支援介助の内容の統一に気をつけている。ミーティングや勉強会、ケアプラン作成時に全職員で徹底するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者に合わせた支援をしている。表情の読み取りや声かけのタイミングや内容などに工夫し意思の疎通ができない方へも対応し、ひとりの職員でうまくいかない場合は違う職員がタイミングなどを計りながら職員間の連携も取れている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や気持ち体調を考慮し支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時など個々のお洒落を楽しんでもらうように心がけている。また美容院や毛染めなども家族との協力を得ながら行っている。意思の疎通できない方には担当者が外出時などにお洒落をして出かけるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け、盛り付け、テーブル拭きなど協力いただいている。食事職員も介助しながら雰囲気作りに気をつけている。	○ 入居者の中で競ってするときがあり無理をして疲れる方が見受けられうまく当番などを決めてするように考慮したい。もっと一緒に料理をする時間を持ちたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	どのようなものが好物か職員は把握して買い物に出かけた時などを買ってきたり、外食で好物を食べたり楽しんでいる。毎週に日曜日の朝食はトーストにしているが和食の希望にも対応できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握しトイレ誘導を行い気持ちよくトイレできるように支援している。また排尿チェック表を確認し尿意のない方もトイレ誘導し支援している。またチェック表は体調管理にも役立つ重宝している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一応決めているが一人ひとり確認しながら入浴している。入浴を拒む方には言葉かけや対応の工夫など職員間での連携ができておりスムーズにできることが多い。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、気分、表情、希望を考慮し安眠や休息が取れるように考慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとなど入居者の方と相談したりしながら計画したりしている。相談できない方は報告など見ながら話がしやすいように工夫している。得意なもの(裁縫など)をお願いしたり活力が出るように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者が家族から小額の小遣いを預かり外出時に自分の財布から買いものをするようにしている。使ったお金の報告は毎月の便りと一緒にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調、希望により散歩や外出、隣の託児所への訪問など行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所へは家族の協力や職員体制などを考慮し行っている。	○	隣にバス会社があるので一度訪問して日帰りの温泉旅行の企画ができないか相談に行ってみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状、暑中見舞いのハガキを留守番している家族や友達、兄弟へ出している。電話は希望の方はかけれるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間や電話での取り次ぎも時間制限はしていない。いつでも訪問できよう配慮している。職員にはあいさつと近況報告をすることを義務付けている。訪問時はゆっくりしていただけるように居室でくつろいでいただいている。	○	家族にもっと友人などの訪問を呼びかけたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護で職員間での意見交換し、認識を常に持つようになっている。ベット柵使用時はやむ終えない事態の時、本人の意思により使用する場合もあり家族の説明理解を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が2階にあり怪談が目の前にあり危険すぎるため鍵をやむ終えずつけている。家族への説明理解を得ている。それ以外では居室の窓に鍵をつけることがあるが、入居間もない方で飛び降りたいと話していたため夜間のみつけて事がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者全員を見守りながら記録などを記入している。夜間も巡視などで全員の状態や居室から出てきた方への対処もすぐできるようにホールにて記録などへしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況により厳重に管理する、注意しながら管理するものと気をつけるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとを活用し職員の共有認識を徹底するようになっている。ひやりはつとを記入した職員が家族への連絡、ミーティングで発表し皆で対策を話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の状態の報告は毎日報告しあっている。その時に急変した場合についても話し合っている。	○	新しい職員も増え応急手当、初期対応の訓練を計画したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と友に避難訓練を行っている。1回は消防署の方に来ていただいている。地域への協力は運営推進会議などをお願いしている。	○	3ヶ月に1回の訓練を計画したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	立地条件がハードなため抑制されているように感じるため散歩や外出を多くし社会との交流により表情が落ち着いてきた。家族へも報告感謝されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には早期対応を心がけ一人での対応、判断は禁止している。その場での職員で相談判断し、管理者、家族への連絡を行い、必要に応じ主治医に相談し受診を行うように職員で認識を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬の準備は必ず2人で行い、服薬時は声を出し合い薬を確認し服用するようにしている。またきちんと服用するまで最後まで見守ることを徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に毎日手作りのヨーグルトを作り10時のおやつ時に食べている。個々の排泄を毎日把握して対処方法も職員間で共有している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの歯磨きやうがいを支援している。義歯は就寝前に洗浄している。歯磨きもうがいがいも拒否される方を含め食事時の最後に水分を取るようにしている。	○	できる限り毎食後に実施するようしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェック表に記入し職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は勤務に就く前にうがい、手洗いを徹底している。職員含め入居者もインフルエンザの予防接種をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週日曜日に白湯用ポット、箸入れなど漂白消毒している。毎日の味噌汁の材料は新鮮なうちに冷凍しそれを使って料理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花をプランターで作って明るい雰囲気になっている。玄関に入ったホールは季節に合わせて手作りの作品を飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハードな建物なので自分たちの作品など季節に応じ作り居心地の良くなるように入居者の意見を聞きながら作っている。お風呂は入浴剤を入れたり、おやつにも季節によるものを取り入れたり工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間なのでゆっくり仲間とくつろぎたい方は台所のテーブルか隣の和室を利用して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のものなどで飾っていたりなじみのダンスなどを持ち込まれたり居心地のいい部屋作りを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレでは換気をし、消臭剤や芳香剤などを使っている。また冷暖房を使用し快適に生活できるようにしている。	○	エアコンのフィルターを定期的に掃除を行う。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどで安全確保や自立への配慮をしている。またトイレへはカーテンで仕切られ使い易くまたプライバシーも確保できるように職員間で入居者の行動を常に見守り支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐため入居者の行動を把握し見守りながら介助し状況判断しながら支援している。それで問題が生じたときはその時々で話し合い不安を取り除くように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを置き、日向ぼっこができるようになっている。花へ水遣りができるように環境を整えている。	○	ボランティアと一緒に花を育てる方を探し楽しみを増やしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物の外見の雰囲気が倉庫のようで近所でも老人施設と知らない方が多いため、去年から夏祭りやクリスマス会などで近所の方に参加していただけるように回覧板やビラにて呼びかけ段々と認識をしていただけるようになった。また外出時には必ず職員はピンクのTシャツを着るようにしている。それによりデパートなどでも認識をしていただけるようになった。その認識により近所での老人問題の相談などに役立つようにしたい。また家族との月2回の主治医の報告を兼ねての近況報告によりコミュニケーションが取れるようになり協力が頂けるようになった。また職員も働きやすいように私生活を重視し、順番に連休が取れるように皆で協力し合っている。月2回の全員によるミーティングの後コミュニケーションが取れるように外出でのストレス解消など働きやすい職場になるように努力している。又笑うことは心と体の健康につながると思うので1日1回声を出して利用者も職員も笑えるそんな環境を作りたい。